

みなとオアシス 笠岡諸島

しまじかん

“ようこそ！島時間を満喫できる瀬戸内随一の島々へ”

岡山県 土木部 港湾課 計画振興班 副参事 すだ かずのり
須田 和徳

1. 瀬戸内海の中心に浮かぶ 「笠岡諸島」

「笠岡諸島」は、岡山県の南西端の笠岡市沖にあり、瀬戸内海のほぼ中央に位置しています。大小31の島々からなっており、そのうち、高島、白石島、北木島、真鍋島、大飛島、小飛島、六島の7島が有人島で、それぞれ特色のある島々となっています（図-1）。

「みなとオアシス 笠岡諸島」は、令和2（2020）

年、全国137カ所目の“みなとオアシス”として、この「笠岡諸島」や笠岡港周辺の17施設が登録されました。

登録から3年目を迎え、“みなとオアシス”を一つのチャンネルとして、さまざまな取り組みが進められ、地域住民の交流促進や地域の魅力向上につなげている岡山県笠岡市をご紹介します（図-2）。

※“みなとオアシス”とは、“みなと”を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設を国土交通省港湾局長が登録するものです。



図-1 「笠岡諸島」へのアクセス

大小31の島々からなる笠岡諸島。そのうち有人7島はそれぞれが特色のある島々です。島間に橋は無く、船で繋がる離島の魅力を是非体験してみてください！

漁師とつづきの島「高島」
笠岡市笠岡港から約8km沖合の、笠岡諸島の最北端に位置する高島は、古くから瀬戸内海航路の要衝として栄えたといわれ、古事記に記されている神武天皇東征の際の高島行宮が置かれた島、という説もあります。

祈りとマリンスポーツの島「白石島」
周囲約10kmの笠岡諸島で2番目に大きい白石島は、古来有名な風光明媚の地であり、国指定の名勝にもなっています。お盆に行われる国指定重要無形民俗文化財の「白石踊」は源平水島合戦の戦死者の霊を弔うために始まったと伝えられており、全国的にも非常に珍しい盆踊りで白石踊見学、体験ツアーも行われ観光客が多く訪れます。

灯台と水仙の島「六島」
笠岡市笠岡港から約22kmにあり、笠岡諸島最南端の島であるとともに、岡山県の最南端でもあります。六島の南約4.5kmにある香川県荏半島三崎との間は、潮流の速い海峡で、瀬戸内海を横断する大型客船などの重要航路となっています。この航路の安全を守るため、六島には岡山県で最初に灯台が設置されました。



石と流し離の島「北木島」
島では北木石とよばれる極めて良質の花崗岩が産出し、その石を利用して大坂城や瀧山城の石垣や明治神宮神宮橋、靖国神社の大鳥居などが造営されたほどの名石です。現在でも採石と漁業が主な産業です。

潮待ちと梧の島「大飛島・小飛島」
笠岡市笠岡港から約18kmにある島で、一般的に大飛島・小飛島をあわせて飛島と呼ばれます。笠岡諸島は古くから瀬戸内海の交通の要衝で、中でも大飛島付近は瀬戸内海の東西の潮が融合する場所といわれ、往來する船がこの地で潮待ちをしていたと考えられています。

歴史と映画の島「真鍋島」
笠岡市笠岡港から約18kmにある島で、島名は、真南辺の島、つまり備中国小田郡の南端にある島という意味で、後に真鍋の字をあてたと考えられています。平安時代末期に藤原氏の一族が水軍の根拠地を置いて、付近の島々を支配下に治めていたという説や、源平合戦で平家方に属した真鍋氏の城址や供養のために建てたと伝えられる石造宝塔などの史跡があり、歴史を今に伝える記録や史跡・行事の多さは、笠岡諸島でも随一です。

参考：(一社)笠岡市観光協会Webサイト

図-2 「みなとオアシス 笠岡諸島」とは

2. 日本遺産「悠久の時間が流れる石の島」

これまで先人の方々が積み重ねた営みと関係者の努力が認められ、「笠岡諸島」を含めたせとうち備讃諸島（岡山県笠岡市と香川県丸亀市、土庄町、小豆島町）の“石の島ストーリー”が、令和元（2019）年、日本遺産に認定されました。

現在、笠岡市では、“石の島ガイド制度構築事業”や“市民団体等による関連事業への補助”などの取り組みを行っています。引き続き、構成市町の丸亀市、土庄町、小豆島町と連携しつつ、民間団体の笠岡商工会議所、(一社)笠岡市観光協会と共に、地域の活性化事業に取り組んでいきます。

※日本遺産とは、地域の歴史や文化を紡いだストーリーを文化庁が認定する制度です。

認定ストーリーの概要

瀬戸内備讃諸島の花こう岩と石切り技術は、長きにわたり日本の建築文化を支えてきました。日本の近代化を象徴する日本銀行本店本館などの西洋建築、また古くは近世城郭の代表で

ある大阪城の石垣など、日本のランドマークとなる建造物が、ここから切り出された石で築かれています。

島々には、400年にわたって巨石を切り、加工し、海を通じて運び、石と共に生きてきた人たちの希少な産業文化が息づいています。世紀を越えて石を切り出した丁場は独特の壮大な景観を形成し、船を操り巨石を運んだ民は、富と迷路のような集落を遺しました（写真-1）。今なお、石にまつわる信仰や生活文化、芸能が継承されています。

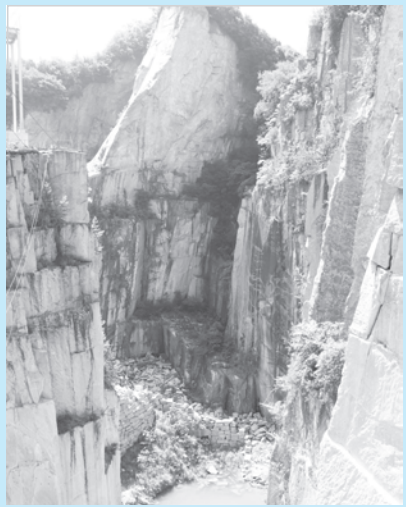


写真-1 北木石の丁場（石切場）

地域活性化の方針

(ストーリーを生かした取り組みの5つの柱)

- (1)文化財、文化遺産等の積極的な整備と活用
- (2)観光客の目線に立ったきめ細やかな情報発信
- (3)歴史・文化の本質的な魅力を伝えるガイドの充実
- (4)長期滞在と観光消費を主眼とする周遊観光の開発
- (5)受入体制の充実と推進組織の確立による事業推進

3. 「笠岡市観光振興ビジョン」

笠岡市では、市民、事業者、行政が一体となり、観光振興に戦略的に取り組む必要性を示すとともに、広域連携を含めた、中長期的な指針となる「笠岡市観光振興ビジョン」を令和3(2021)年3月に策定しており、“観光地としての笠岡の地位の確立”と“笠岡湾干拓地”、「笠岡諸島」のブランド化”などに取り組んでいます(図-3, 4)。



図-3 「笠岡市観光振興ビジョン」表紙

笠岡市の観光重点アクションプラン

(1) 観光まちづくりと商品化

① 観光まちづくり

■ エリアのめざすイメージの共有

◇ 島ごとの方向性の検討

■ 観光資源の磨き上げ

◇ 日本遺産「悠久の時間が流れる石の島」の推進

◇ 島を満喫できる環境整備

◇ 笠岡諸島だからこそ楽しめる体験プログラム

◇ 島に伝わる家庭料理の提供

◇ 陸地部の食とのマッチング

◇ 空き家の活用促進

◇ 土産物の購買環境の整備

◇ 観光客のマナーや安全等の対策

② 旅行商品・イベント

■ イベント

◇ 島時間と各島の個性を満喫できる島旅イベント

■ ツアー開発・営業

◇ 旅行代理店等への営業強化

◇ クルーズの誘致

◇ 教育旅行の誘致

(2) ブランド化・情報発信

① エリア・テーマ別のブランド戦略の立案と情報発信

◇ 島の個性づくりと笠岡諸島ならではの強みの明確化

② マーケティング力の強化とメディア・ミックスによる情報発信

◇ SNSによる発信力強化

◇ 笠岡諸島のイメージと合致するメディアへの営業

◇ 外国人に向けた情報発信

(3) 受入環境・体制

① 受入環境整備

■ 基盤整備

◇ J R笠岡駅前における観光機能の充実

◇ J R笠岡駅周辺整備基本構想の実現に向けた検討

◇ 観光トイレ等の整備

◇ 各種受入環境の整備

■ 移動環境の整備

◇ 船に関する移動情報の発信充実

◇ 旅客船の周遊企画券の検討

◇ 各島に合った移動環境の整備

② 体制整備

■ 担い手の発掘・育成

◇ 移住・関係人口施策と絡めた担い手の誘致

■ 観光推進体制の強化

◇ 島の関係者のネットワーク強化

◇ 外国人対応力の強化

■ 外部連携の強化

◇ 新しいビジネスを行う事業者等との積極連携

出典：「笠岡市観光振興ビジョン」pp.47～50より抜粋

図-4 笠岡市の観光重点アクションプラン
(2 笠岡諸島)

4. 「SETOUCHI」は世界ブランド

海運に適した穏やかな海、点在する島々、そこに暮らす人々は、いにしえより、数々の文化を育

み、それを世界に向けて発信してきました。昭和9(1934)年、我が国において最初に国立公園の指定がなされたのも、この「瀬戸内海」です。

近年では、瀬戸内の島々が、米ニューヨーク・タイムズ誌で、読者に勧める旅行先第7位の榮譽

表－1 主な観光地点の状況（令和3年岡山県観光客動態調査結果の概要より）（単位：千人，％）

順位	観光地点	令和元年	令和2年	令和3年	対前年比	対令和元年比
1	玉野・渋川	2,127	2,125	2,355	110.8	110.7
2	倉敷美観地区	3,283	1,544	1,465	94.9	44.6
3	蒜山高原	2,239	1,650	1,443	87.5	64.4
4	笠岡・笠岡諸島	1,250	976	906	92.8	72.5
5	後楽園・岡山城周辺	2,404	907	662	73.0	27.5
6	津山・鶴山公園	1,316	849	658	77.5	50.0
7	吉備路	1,473	745	534	71.7	36.3
8	美作・湯郷温泉	815	610	525	86.1	64.4
9	児島・鷲羽山	1,310	653	417	63.9	31.8
10	JR岡山駅周辺	781	60	66	110.0	8.5

に輝くなど、そのポテンシャルの高さが世界の
人々に認められ、今や日本の域を越えて名実とも
に世界ブランドを確立しつつあります。

また、昨年、5回目となる「瀬戸内国際芸術祭
2022」が春、夏、秋会期に分けて開催され、いず
れも多く観光客が訪れ、瀬戸内の島々を満喫し
ました（表－1）。

5. 県内各地の活性化に向けて

岡山県内には、「笠岡諸島」のほかに、玉野市
宇野、備前市日生、瀬戸内市牛窓において、3つ
の“みなとオアシス”が認定されており、昨年度、
国の担当者の呼びかけで、岡山県内のみなとオア
シス担当者の勉強会が開催されました。県内各地
の活性化に向け、引き続き、国、県、市担当者相
互の連携、情報共有を図りながら、関係者が一丸
となって取り組みを進めていきます。

話題：「六島灯台の100周年」を彩る水仙の花々

大正11（1922）年、岡山県の最南端に位置
する「笠岡諸島」の六島に県内で最初に設置さ
れた灯台が、昨年、点灯からちょうど100周年
を迎えました。島内には、六島小学校やボラン
ティアのみなさんが守り育ててきた水仙の群生
地が広がっており、毎年1月末～2月末頃には
白色の可憐な花が咲き誇り、辺り一帯に甘い香
りが漂います。すっかり島のシンボルとなった
白い灯台の100周年を水仙の花々が彩ります
（写真－2）。



写真－2 六島灯台と水仙の花々

小話：筆者の「白石島での思い出」

「笠岡諸島」の中で、筆者が一番数多く訪れ
ている島は、白石島です。中学生の頃、通っ
ていた塾の先生と生徒のみんなで、夏休みにな
ると毎年、早朝から電車と高速艇を乗り継いで島
へ向かい、夢中で海水浴を楽しんだ思い出の地
です。また、小学生の頃、家族旅行で訪れ、島
内の民宿に宿泊し、家族でハイキングコースを
散策したことも良い思い出となっています。

よく「島時間」という言葉が使われますが、笠
岡諸島を訪れるとそれを肌で感じる事ができま
す。また、海釣りのポイントもたくさんあり、ゆ
ったりとした時間を味わいながら、多くの釣り人
が釣り糸を垂らしています。皆さまも癒やしを求
めて、笠岡諸島へぜひお越しください。